

2007/11/18 桂小防災拠点防災訓練
安否確認・被災情報収集システムテスト運用 レビュー資料

課題事項

1. システムのネーミングについて

システムの内容が伝わり、かつ、覚えやすい名前をつける必要がある

例 “地域共助支援システム”

2. 説明資料について

現行の資料からは内容がなかなか伝わらない。誰にでもわかる資料を用意する

VTRを使った説明資料など見るだけでわかる資料を用意する

デモ用マシンを用意する

導入までの手順を解説した資料を作成する（地域をどのようにまとめていくか、桂小地区＋他の地域に向けて）

個人情報の取り扱いについて説明が必要

3. マニュアル整備について

災害時の防災拠点の運営も含めたマニュアルを作成する（組織、ハードウェア他にも触れる）

災害時の具体的なヒアリングの仕方・情報の取り方についてインストラクションが必要

操作マニュアルを整備する

4. システム機能について

ハードウェア、インフラ

入力用のデバイスの検討（PDA等入力用に使用できる機器はないか）

複数パソコンのネットワーク化（サーバーにデータを一元化、各種登録作業、救援作業等を複数台のパソコンで同時並行して行いたい。最低4台は必要か）

指紋認証の活用（バーコードの代わりに指紋認証を使えないか）

情報センターに蓄積されたデータを集約する機能

横浜市の安否確認システムへの蓄積データ出力機能

タッチパネル式のパソコンでの操作性の確認

電源の確保をどうするか

データ

家族の構成員個々のデータを事前登録とする。名前（イニシャル可）、年齢区分、性別、要援護写真の登録管理機能

個別機能

経過時間タイマー（災害発生からの経過時間を表示する）、発災日時の入力画面が必要
ウィンドウを分割させる（地図表示、統計表のみを表示させることができるようにする）

（１）安否及び被災状況の登録



地図上のマークの見え方を検討、色が分かりにくい。（たとえば、初期値の青は強すぎる）、マークの定義を明確にする。モノクロの印刷に耐えられるか

要援護の意味づけが明確になっていない。（世帯としての要援護あり、個人のレベルでの要援護、事後の要援護などの区別）

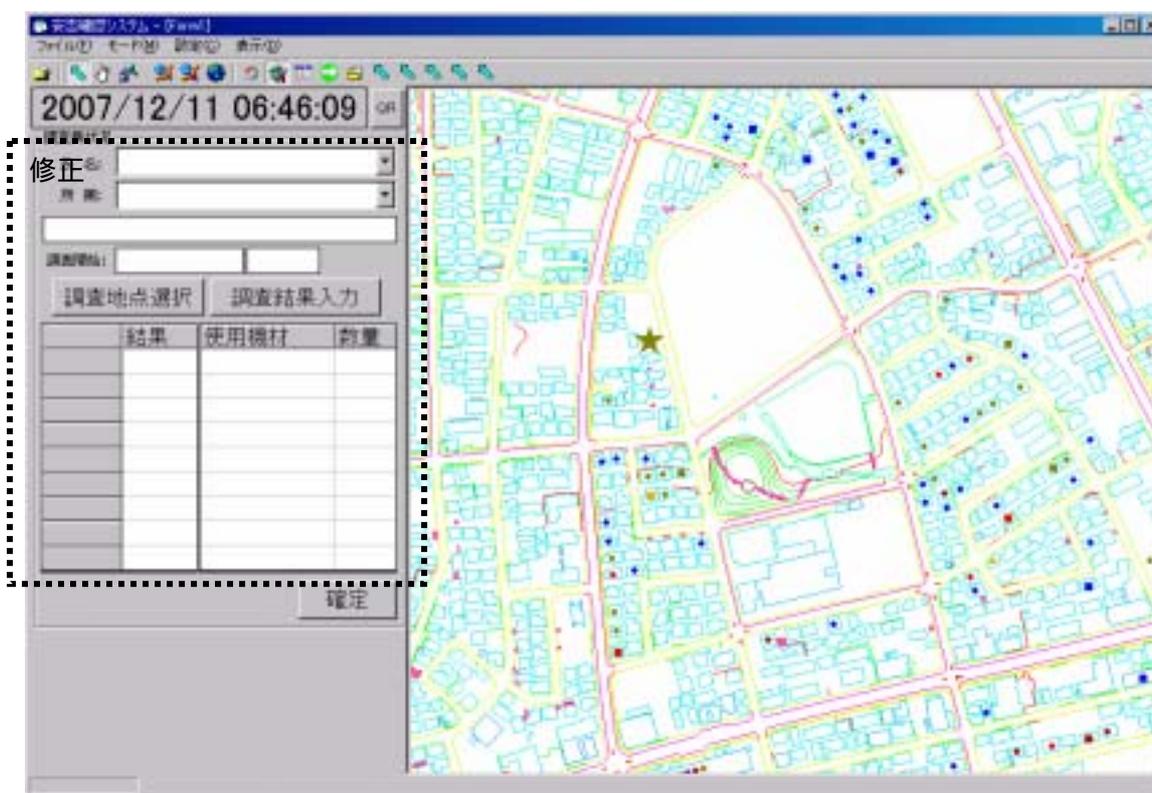
要援護が避難所にも、地図上のマークが要援護マークになってしまう。（修正）

個人の安否データの入力について個々の名前に基づく入力とする。その上で、入力時の追加も可能とする。行の選択のイメージが操作上良く分からない。

聞き取りの順番に項目を並べ替える。

データの登録ボタン、取り消し、キャンセルボタンが必要（データを初期の状態に戻す処理が必要）

(2) 救援隊(調査隊)派遣機能



- * 調査員をキーにするのではなく、調査エリアをキーにする。
- * 調査員には、住民とボランティアの両方を登録可能とする。
- * 資機材についてもデータベース化、必要に応じてQRで管理する。
- * 調査エリアの分割については事前に行っておくことも可能。要検討。
- * 登録、キャンセル機能が必要

新機能(案)

地図上のエリアを選択して調査対象を決定する。調査エリアはシステムで管理され、エリア No. (自動採番)を持ち、エリア No.はQRコード化される。

調査エリアを選択、印刷をかけるとマークつきの地図と共にQRコードが印刷される。(複数の調査エリアを随時印刷しておき順番に処理してゆくイメージを想定)

調査エリアのQRコードに続いて、調査員のQR、資機材のQRを読み込むことで、調査エリアごとに人員、資機材の管理を行う。調査員、資機材は複数のエリアに同時に登録可能とする。

調査開始と共にステータスを「調査中」に変更(調査エリア、調査員、資機材とも)

調査終了後、調査結果の入力と共に、ステータスを変更

調査エリアについては、「調査完了」、「再調査(緊急、通常)」から選択、調査員、資機材については「待機」とする。(調査エリア登録時点ではステータスは「未調査」)

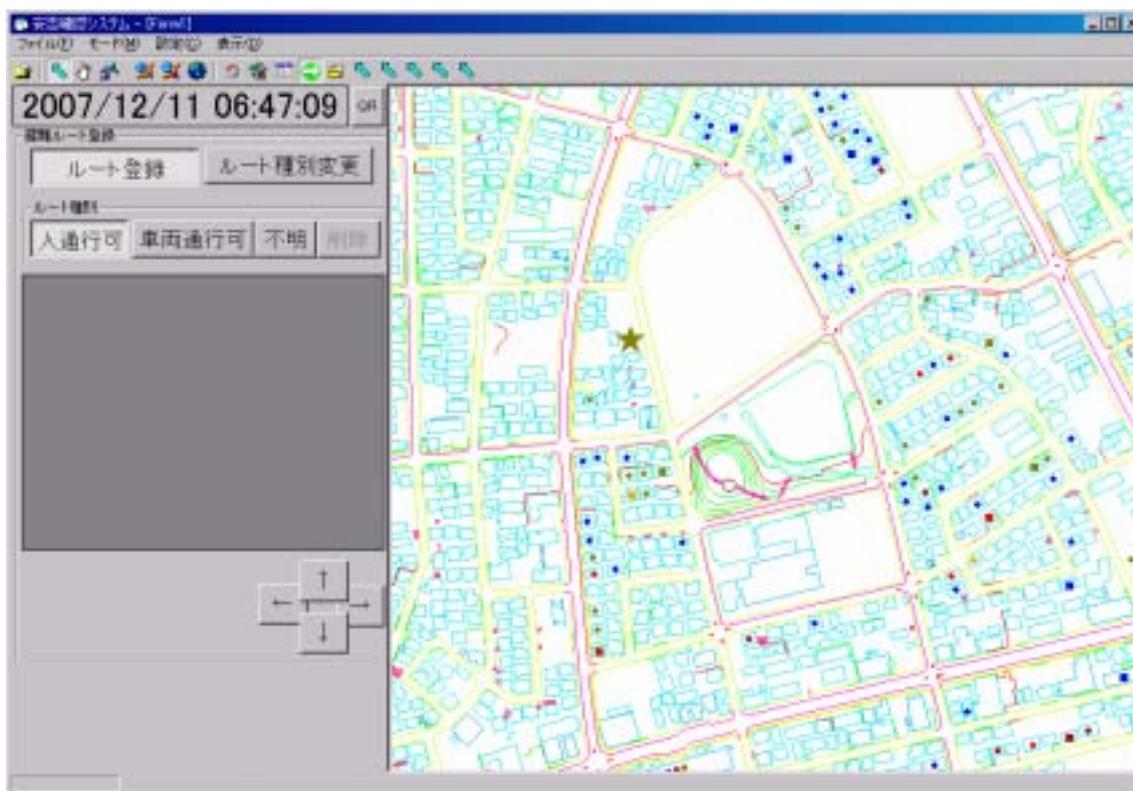
調査員、資機材のステータス変更は一括、個別とも可能とする必要がある(一部が戻ってきたような場合)

(3) 統計機能



- 援護必要、援護不要の区分をどのように処理するか
- セルの色の表示ルールを明確にしたい
- 不明の意味づけを明確にしたい
- 地図情報と表データの連携を検討する
- 統計表の印刷機能 (FAX 等による報告用)

(4) 避難ルート情報



登録されたルート情報の持ち方が明確でない(分割の仕方等)

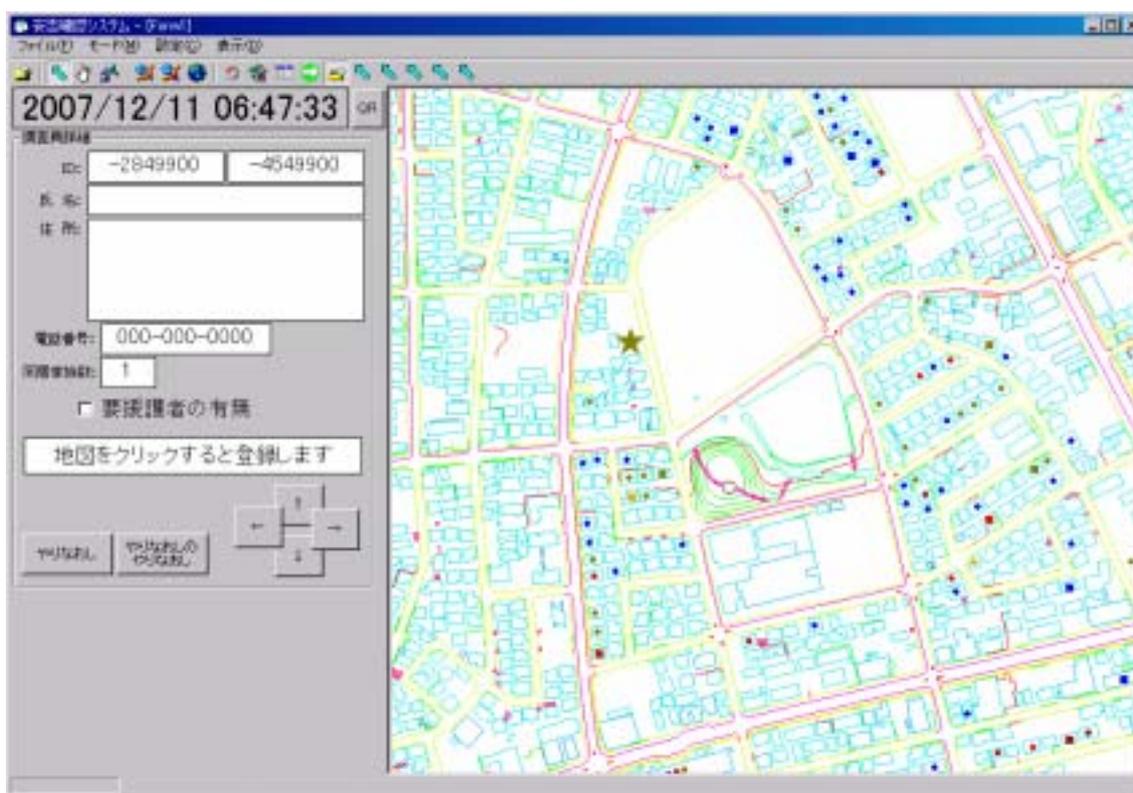
登録されたルート情報の削除ができない

ルート種別の変更の処理が明確でない

情報の重複による表示の変化等、コントロールが明確でない。情報が複数ある場合でも最新の情報で上書きされれば良いのではないか

入力方法について工夫できないか(ペンによる入力等)

(5) ボランティア登録、世帯の追加入力



ボランティアについては氏名、住所、電話番号のほか、性別、年齢、資格（看護師、医師などあれば）などの情報、身分の確認の有無等を管理する必要があるのではないか。

ボランティアに QR つきの専用の腕章を配布して管理する方式を検討。QR を事前に発行しておく未登録避難者をどのように登録してゆくか手順を決めておく必要がある。また、登録済みで QR を持参していない場合の対応も同様

今後の進め方

システムの修正、動作確認をお願いします。（2008年1月末までに一通り完成できないか）

平行してドキュメント関係を整備する。（研究所で作成した資料のファイルを共有したい）

横浜市へのアプローチ

- レポート作成（アンケート結果等を盛り込む）（2008年1月）
- 安全管理局、市長、副市長、危機管理官への提言（2008年1月）
- 予算委員会での提案（2008年3月）

桂小防災拠点としての次のアクション（本格導入のための準備を進める）

- 2008年3月までに基本方針を固める（住民の基本合意を取りたい）
- 2008年11月の防災訓練を目途に、本格稼働のための準備を済ませる

青葉区以外の自治会、防災拠点への展開

横浜市の協働事業にエントリーする（まずは青葉区から）

以上